

令和8年度までの目標	国語		算数・数学	
	自校A B層の割合	50%	自校A B層の割合	40%
令和5年度の成果	自校A B層の割合	33.3%	自校A B層の割合	19.6%

目標達成に向けた取組

3つの観点	教員の指導力向上	基礎学力の保障	学習習慣の確立
学校全体の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・「めあて」と「まとめ」を毎時間必ず示す ・「前時のふりかえり」を行い、本時の意欲につなげるとともに、授業の終わりに「本時のふりかえり」を行い、次時への意欲につなげる ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業展開の手順である「つかむー考えるーかかわるー深める」を共有し、授業を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎計算力を高めるための3分間で行う計算プリント「がんばるんぱ」を、実施する（2年生以上） ・授業や宿題で「ドリルパーク」を活用し、既習事項の定着を図る ・漢字の筆記能力を高めるため、各学期の漢字50問テストを使った「漢字王」を行い、漢字学習への取り組み強化を図る。 ・週に一回、よおYOMUワークシートに確実に取り組む。 ・学力調査の診断シートに基づき、習熟の低い単元の強化を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・年に5回、学校全体で計算力を競う大会「がんばるんぱ選手権」を行い、成績上位者を表彰する ・江戸っ子Studyweek年3回にて、ドリルパークへの取り組みを確認し、個別指導を行う ・毎学期の始まり時に「家庭学習強化週間」を実施し、保護者に協力を求めながら家庭学習の習慣の確立を図る
特に支援が必要な児童・生徒への手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・児童自身が自己の力に応じた課題や解決方法を選べるように、複数の課題や手だてを用意する ・児童の実態に応じた課題を個別に設定し、「できた」という達成感を味わわせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な問題から取り組ませて自己肯定感を高めるとともに、つまづきを発見し、戻って指導する ・放課後補習教室を活用し、既習事項の定着を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭と連携し、「ドリルパーク」を毎日必ず10分間程度（個に応じる）取り組ませ、家庭学習強化週間には実施状況をカードに記録して意欲付ける
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> ・「ドリルパーク」の児童学習時間を、年間で低学年は15時間、中学年は20時間、高学年は25時間以上を目指す ・学校独自の児童アンケートにおいて、「授業の内容がよくわかりますか」の肯定的な回答割合が80%以上を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校独自の児童アンケートにおいて、「毎時間振り返りを行っている」「めあてとまとめを書いている」の肯定的な回答が80%以上を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校独自の児童アンケートにおいて、「授業時間以外の勉強時間が30分以上」の回答割合が80%以上を目指す